

ふり返り 確かめ 進化

ハイライト：

- ・実践を今後の授業に生かす
～研究のまとめ～
- ・今あるものを精選して
～まとめの内容の構成～
- ・ふり返り 確かめ 進化
- ・子どもたちの目を輝かせる
ために
- ・3学期の研修は、次のよ
うに進めます。

実践を今後の授業に生かす ～研究のまとめ～

1・2学期の主題研究では、近接学年部を中心に、公開授業・授業参観指導を通して、授業づくりをすすめてきました。その過程では、久原小の先生方ならではのアイデアが生み出され、様々な授業改善が行われてきました。これは、年度初めに提案した「イノベーション」(技術革新)が着実に進んでいることとなります。

3学期は、本年度の研究をまとめていく時期となります。ここでも、イノベーションを進めていきましょう。まとめの改善テーマは、「まとめのためのまとめにしないこと」です。

これまでの研究のまとめは、個々の公開授業の実践をまとめたものを載せ、年度末に配布され、あまり活用できていませんでした。

そこで、本年度の研究のまとめは、「実践を今後の授業に生かすことができるもの」に改善していきます。

具体的には、これまで一冊にまとめていたものを、低・中・高学年という3つの分冊に分けていきます。これは、次年度以降の実践に有効に活用していくことをねらっています。

例えば、高学年を担当していた先生が、次年度に低学年を担当した場合に、低学年の冊子を見れば、授業づくりのヒントを得られるようにしていきます。

そのためには、学習指導案はもとより、板書発問計画や使用した学習プリント、ヒントカード、流れ図等、授業をつくっていく過程で行われた様々な支援を載せていくことが必要となります。先生方が実践された細やかな支援が、久原小学校の貴重な財産となっていくのです。

一人一人の実践をみんなで共有することができる研究のまとめをつくり上げていきましょう。

今あるものから精選して ～まとめの内容の構成～

分冊に載せる内容は、低・中・高学年部会ごとに検討していきます。ここでは、「まとめのためのまとめにしないこと」「今後の授業づくりに生かすことができるもの」を意識していきましょう。ただし、まとめのために新たに何かを作成していくのではなく、今あるものから次年度に活用できるものを精選していきましょう。まとめのために時間を費やし、日々の授業が疎かになってしまうことは避けていきましょう。

このようなまとめの作成方法をとると、部会ごとの内容の構成に違いが生まれてきます。それぞれの学年の発達段階に応じた違いは大切なことですが、より活用しやすいように統一させておく内容を確認しておきます。

学習指導案（公開授業分）・研究通信（イノベーション）
部会の成果と課題（国語・算数・チーム力）

※論文作成者は、論文形式のままで構いません。

ふり返し 確かめ 進化

3 学期の研修のキーワードを、「ふり返し・確かめ・進化」としていきます。

「ふり返し」は、文字通りこれまでの実践をふり返し、成果と課題を明らかにしていくこととなります。研究のまとめをつかっていく過程で、内容の構成についての検討を行い、精選していくことが、よりよい「ふり返し」を生み出していくこととなります。

「確かめ」は、部ごとのふり返しを全職員で共有していくこととなります。具体的には、年度末報告会を設定していきます。これは、夏休みに行った中間報告会を受けた 2 学期以降の実践を共有していく場となります。

「進化」は、本年度の研究を生かす来年度の方向性を共通理解し、実践していくこととなります。3 学期の報告会は、最終報告会ではなく、あくまで来年度に向け久原小学校が進化していくことを目的にしているものです。言い換えれば「中間報告会Ⅱ」なのです。

3 学期の研修の時間は限られたものとなります。その中で「ふり返し・確かめ・進化」を充実させていくことが大切なこととなります。

来年度は 11 月に研究発表会を行う予定です。この研究発表会を「最終報告会」として位置付け、久原小学校の研究をより進化させていきましょう。



3 学期は、まとめの時期ではなく、進化の時期です。

子どもたちの目を輝かせるために

2 学期の学校評価についての職員会議では、先生方のきめ細やかな手だてを共有することができ、とても有意義な時間となりました。子どもたちが「できる喜び・わかる喜び」を実感し、向上心をもって学習に取り組むことができるようにするためには、様々な視点からの支援が必要だということを改めて感じました。

子どもたちの目が輝く授業をつくりだしていくためには、「できる喜び・わかる喜び」は不可欠なものです。しか

し、2 学期テストの結果分析から、このような喜びを感じさせきれていない子どもたちがまだいることも確かです。

これまで行ってきた実践が、研究のための研究にならないように、すべての子どもの目を輝かすことのできる授業をつくりだしていきましょう。

そのために、久原小学校の全職員がチームとなり、一人一人の子どもを支え、一人一人の先生を支えていきましょう。

3 学期の研修は、次のように進めます。

主題研究		一般研修	
1 月	17 研究のまとめ作成 24 研究のまとめ作成 31 研究のまとめ原稿提出〆切	1 月	17・24 家庭科研準備 27 地区家庭科研
2 月	9 研究推進委員会（研究の方向性：山崎教頭） 14 授業研修②（全研 井上 提案授業：安部指導主事） 28 年度末報告会（山崎教頭・安部指導主事）	2 月	21 授業研修（全研・なのはな：柴田指導主事） 配慮を要する児童への支援の共通理解③
3 月	成績分析による実践の評価と改善③	3 月	